



平安時代、紫式部が、父・藤原為時に付き添い越前国府へ向かったルートには南越前町内にも含まれているとされています。そこで今回は、「鹿蒜」の地について取り上げます。

鹿蒜は、現在の南今庄集落（旧名は帰村）から新道集落にかけての中間地域に比定されるといいます。北陸道の関門で奈良時代には「鹿蒜駅」が置かれました。この時代の「駅」は現代と異なり、それぞれの「駅」には「駅馬※」が設けられていました。※駅路の通行に供用された馬のこと。

さらに、この地には『延喜式神名帳』にもその名がある鹿蒜神社が鎮座しています。養蚕と駅地の神として崇敬され、近くの帰山とともに広く知られたところでした。

紫式部は、そのような鹿蒜の地について、以下の2句を詠んでいます（2句とも『紫式部集』より）。

行きめぐり 誰も都に 帰る山 いつはたときく 程の遙けさ
ふるさと 帰る山路の それならば 心やゆくと 雪も見てまし

「帰る山」は鹿蒜（帰）の山々のことを指しており「いつはた」は五幡（敦賀市）と「いつかまた」の掛言葉です。もしかしたら、紫式部は京から府中へ向かう途中に鹿蒜駅で一泊するとともに、鹿蒜神社にも足を運んだのかもしれない。



鹿蒜神社

イベント告知

「紫式部と南越前町ゆかりの地」イベントを9月29日（日）に開催します！

- 8：30～ 後藤ひろみ氏と巡る紫式部ゆかりの地バスツアー
- 11：00～ 後藤ひろみ氏による講演会
- 13：30～ 講師・玉田玉秀斎氏による講演会

※詳しくは、8月9日（金）に各戸配布のチラシをご覧ください。

紫式部プロジェクト「紫式部の旅」再現行列 参加者募集！

県内外の自治体と協力し、都から越前国府への旅を再現します。再現にあたり、県内外ゆかりの地で行列を作り、儀式を行うため、紫式部や父・藤原為時に扮しこの行列に参加する人を募集します。

- 日時・場所 10月18日（金）京都府宇治市（宇治上神社）、滋賀県大津市（石山寺ほか）
10月19日（土）敦賀市（氣比神宮）、南越前町（鹿蒜神社）
10月20日（日）越前市（総社大神宮ほか）

募集 紫式部、藤原為時、藤原宣孝、侍女、従者役など。募集単位は宇治市、大津市、福井県内の3区分で45役柄、総数114名。
※福井県内分については、1日単位での応募も可能です。

参加費 無料

応募方法 右の応募フォームからお申し込みください。

応募締切 8月20日（火）

主催 紫式部プロジェクト推進協議会、越前市
※応募者多数の場合、事務局で選考を行ったうえで決定。



応募フォーム



問合せ 教育委員会事務局 ☎ 0778-47-8005